



平成28年度卒業式に寄せて

3年生の皆さん、卒業おめでとう！

卒業生の保護者の皆様、本日はおめでとうございます。3年間にわたる本校へのご理解とご協力に心から感謝申し上げます。

本号では、卒業生の皆さんへの餞として式辞で述べたいと思っているメッセージの一部を、少し補足しながらご紹介したいと思います。

はなむけのメッセージ ①



“君の人生の主人公は君自身だ”

昔観た映画の主人公の女性が、旅先で知り合った老人から言われた言葉です。

真面目で善良で少し自信がない彼女は、親しい男性に別の恋人ができて、彼の言葉を信じて待っていました。傷つき、不満を抱えながら、ひたすら耐えていましたが、結局彼は別の人と婚約してしまいます。彼女は絶望し、その後、気を取り直して一人旅に出ました。そこで出会ったのが、昔映画関係の仕事をしていた孤独な老人でした。老人は彼女に言いました。

君はどう見ても主演女優だ。それなのにまるで脇役のように振る舞っている。君の人生の主役は君なんだよ。どうして自分で脇役のように振る舞うんだい？

この言葉で彼女は変身します。自分の人生の主人公は自分だと自覚したのです。周囲と自分を比較して自信を失ったり、対人関係の中で傷ついたり、常に受け身でパツとしなかった彼女は、自分の力で自由に人生を切り拓き始めたのです。

君たちは、一人ひとりが自分の人生の主人公です。誰にも、何にも遠慮することなく、堂々と生きていけばいい。そして自分が求めるものに向かって進んでいってほしいと思います。

以前、マザー・テレサの言葉を紹介したことがありました。「思考」はいつか「言葉」になり、「言葉」はいつか「行動」になり、「行動」はいつか「習慣」になり、「習慣」はいつか「性格」になり、そして自分の「性格」がいつか自分の「運命」を決めるのだと教えていました。

自分の人生の主人公として、自分の意志で堂々と人生を切り拓いていってください。

はなむけのメッセージ ②



“人のために役立つことに人間としての幸福がある”

私には101歳の母がいます。要介護で、日常の大抵のことには介助が必要です。ウトウト寝ていることが多いのですが、私がいるのに気づくと話しかけてくれることもあります。

「忙しいの？」 「う～ん、まあね」 「私も何かしようか？」

何かすると言われても、母ができることは限られています。少し考えて私は言いました。

「うん…じゃあ…洗濯物畳んでくれるかな？」 「いいよ。持っておいで」

私は、乾いた洗濯物が入ったカゴから簡単に畳めそうな母の衣類を2～3枚持ってきて渡しました。日頃家族に世話をかけることを気にしているので、少しでも自分のことをしてもらえばと思ったのです。母は黙って畳んでいました。そして、つまらなそうにボソリと言ったのです。

「私のものばかりだった…」

その時はあまり深く考えずに曖昧な返事をしたのですが、私は徐々に母の言葉が気になり始めました。自分のことが自分でできて嬉しくはないの？ 何が言いたかったんだろう？

翌日、私は母に再び洗濯物を畳んでもらいました。私の衣類、夫のハンカチ、家族で使うタオル。母は時間をかけて、途中でわからなくなったり、始めからやり直したりしながらやっと畳み終えると、「ああ、仕事した、仕事した！」と満足そうに笑ったのです。

101歳の母にあるのは、人としての基本的な感情なのでしょう。母から教わったことは、〈人間は人と人との関係の中で生きており、その中で自分が役に立つ存在だと感じた時に自分の価値を確認し、幸せを感じるのだ〉ということでした。感謝されたり、褒められたりすれば、なお嬉しいでしょう。しかし、そうでなくとも、自分が役立っていると自分が感じることで、私達は十分に幸福なのです。それは、先に述べた、自信を持って堂々と自分の人生を生きることにもつながる大切なポイントであるように思います。

式辞には書かなかった、もうひとつこと



世の中の歴史は出来事が起こっているときに現在進行形で書かれるわけではなく、のちにその出来事を解釈して語られます。人の歴史も同様だと思います。

自分にとって高校3年間でどんな時代だったのかは、今すぐ決められることではありません。楽しい3年間であっても、10年後の自分が輝いていなかったら、「自分の高校生活では駄目だったのかな」と嘆くかもしれません。一方、どんなに苦悩に満ちた3年間だったとしても、10年後の人生が素晴らしいものであれば、「あの3年間があったからこそ、今の自分がある」と胸を張って語れるのだと思います。喜びも悲しみも、すべてが自分の強さと優しさと英知になり、一生の財産となります。頑張れ、卒業生！そして在校生！

おわりに



改めて文武両道に励んだ3年間で称えます。そして国公立・私立大学の一般受験など高い志を持って挑戦している卒業生諸君のもとに朗報が届くことを心から願っています。

震災からの復興、地域の人口減少など社会的課題は多く、世界の至るところで閉塞感が漂う状況も残念ながらあります。しかし、未来を信じて努力することは人間に与えられた使命であり、きっと道はひらけると信じます。君たちが明るく希望に満ちた人生を送ること、そして君たちが社会をよりよいものに変えていく力となることを願います。

在校生諸君は、間もなく現在の学年を終え、進級の時期を迎えます。前号で述べたとおり、「2年^{ゼロ}0学期」「3年^{ゼロ}0学期」の気構えで、文武両道に充実した毎日を送ってください。